

第79号特集

キャリアセンターの就活応援活動

大学生活において各学年で心掛けておくべきことは何ですか

就職活動では、基礎学力や専門知識・

技術に加えて、「社会人基礎力」が重要

になります。「社会人基礎力」というのは、

経済産業省が定義したもので、社会で活

躍するための基礎的な能力という意味で

す。具体的には、前に踏み出す力、考え

抜く力、チームで働く力があります。そ

れぞれの能力要素は、前に踏み出す力が

主体性、働きかけ力、実行力。それから、

考え抜く力としては課題発見力、計画

力、創造力があります。チームで働く力

の能力要素は、発信力、傾聴力、柔軟性、

状況把握力、規律性、ストレスコント

ロール力があります（表）。

コミュニケーション力ひとつとって

分類	能力要素	内容
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力
	実行力	目的を設定し確実に行動する力
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
	創造力	新しい価値を生み出す力
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
	状況把握力	自分と周囲の人々と物事との関係性を理解する力
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

(表)【社会人基礎力】の項目

も、就職活動が始まったときに、これらの能力を身に付けようとしても、なかなか難しいところがあります。だから、大学1年生の時から、本当のことを言うとして以前から、早い段階でこういう力が社会で活躍するために必要なんだということを知っておくことが重要です。また日常の活動の中で、これらの能力を身につけていく、あるいは高めていくという意識や行動になっているかどうかということも大事になってきます。

大卒の新入社員の35%の人が、企業に入社して3年以内に離職するというデータがあるのを御存じですか？こしばらく、そういう傾向が続いているんです。1年以内に15%の人が辞めてしまう。この理由付けとして、仕事と本人の思いが違ったミスマッチだとか、不本意な就職だとか言われているんです。けれどもうちよつと掘り下げて考えてみると、新卒一括採用ということは、能力云々よりもこれから育ってくれるだろう、力をつけてくれるだろうという期待が企業側にあ

るわけですよ。ともすれば、大学生の皆さんは就職活動が終わったら、安心してしまおうという感じになりがちなんですね。でも実際は、就職活動後も、また、入社後も社会人基礎力を継続的に高める取り組みが必要です。社会人基礎力は、大学入学以前からお年寄りになっても、ずっと高めていかなきゃならないという意識を持てるか、これがまず重要なんですね。

大学1年生の時は、まずこれを知った上で日々の活動に取り組むかどうか、というのがポイントになりますね。社会人基礎力を高めるためには、何かの活動に取り組むというのが1つの方法です。だから何かの活動に取り組むというのはお勧めです。編集委員の皆さんが今やっている取材活動も、人と直接会って話をするだとか、セッティングして、交渉したりしているわけです。実際今皆さんはこうやって取材しているわけですから、傾聴力をこの場で鍛えていることになるかもしれません。それから活動にただな

んとなく取り組むより、こういう力いるよねって思っただけで取り組むということも、力をつけるためには重要になってきます。でも今言ったように、力をつけるには、活動を通してということになりがちなんですけど、いくつかの要素はその能力を高める方法を知っていれば、効果的なトレーニングを積むことが可能なので、書籍だとか、いろんなところで少しやり方を学ぶのもいいかもしれません。例えば傾聴力は、具体的に技法を理解した上で繰り返しトレーニングを受けて、身につけていくものなんです。それと創造力などは、理工系の人だと、TRIZ発明的発想法という発明原理を知って発想法を学ぶ、という方法もあります。だから、そんなことをちよつとでも意識して何かの活動に取り組むということが、力をつけていく要素になると思います。



学生プラザ外観

話は変わりますが、就職活動を控えた3年生や、M1の人がコミュニケーション力に自信がない、ということをよく言うんですよ。コミュニケーション力を高めるためには、そもそも発信とか傾聴というものがどんなメカニズムなのか知る必要があるわけですね。僕の言葉は今ここで録音して、後で聞いて文字に起こし

たら出てきますよね。でも、文字情報だけがコミュニケーションかと言われると違いますよね。例えば、表情だとか声の大きさだとか、話す姿勢だとか、話す人はいろんな要素を使って発信しているわけですね。それをまず知っている、人に向かってどう発信するか、ということが問題になってきます。

それで僕がお勧めするのは、今やっている挨拶を1つグレードの高い挨拶にするためにはどうすればいいのか、を考えてやってみるということです。例えば、ミーティングで集まっているときに、「こんにちは」と言って部屋に入ってきます。その挨拶はなんとなく集団に対してやっている。だけど、挨拶はひとりひとりにしたほうが、自分にくれていると思うってその人も挨拶を返しますよね。挨拶は相手に届いたら本当に挨拶として認識されるんだから、当然ある一定の声の大きさが必要で、それともう一つはさっき言った表情だとか視線だとかを工夫すると、質は上がってきます。それ

を日々意識してやるということが重要です。意識してやると何が違うかというと、人があいさつを返してくれると、これで良かったんだ、というのがわかるわけですよ。でも、「おっ！・・・」くらいのリアクションしか返って来なかったら、まだ声の大きさとか表情とか足りないのかと考えますよね。だから意識化することで、質を高めることができるわけです。このような働きかけを実行するのは、ちよつと自分の中で意識したら必ずできるのね。そして次はそれを活動の中に取り込めるかどうかということが問題になってくる。つまり、何かに取り組むということは大事なんだけど、その活動の中で能力を一段高める要素をなにか意識してやってみよう、ということ。これが1年生の段階では大事になってくるかな。

2年生はというと、ぼちぼち社会を意識したいよね。どうしても大学生だと、学内のこととか自分の活動のこととかが2年生の時くらいに面白くなってくるん

だよ。ただし3年生になってから社会に目を向けようというよりは、2年生の時からでも少しずつ意識してほしい。具体的にどうすればいいかというと、よく新聞を読め、っていうんだけど、みんな忙しくて、新聞を毎日読む時間はなかなか無いよね。お手軽なのは、ネットにアクセスしたときに、どんな新聞でもいいんだけど、1日1回パッと見てみて、自分の面白そうだと思うところをクリックして、どんな記事があるか見てみると。それだけでも全然違うよ。今起っていることを知っておくのもいいし、あるいはこの分野の展開が将来どうなるんだろう、ということをとなく頭に入れているだけでも、本格的に社会に目をつける就職活動のときに、まるっきり今まで考えてなかった人よりは考えやすくなるよね。



学生プラザ2階キャリアセンター

3年生は、10月くらいになったら否応なしに就職活動に取り組むことになります。3年前期から就職ガイダンスをキャリアセンターは実施していて、そこで全体の流れどうするかという話をしていきます。また、僕たち教職員が各学部だとか研究科に呼ばれて行って話をすることもあります。だから、できれば学内のガイ

ダンスとかに少し目を向けてもらって、そんなサービスを活用してほしいですね。それから、3年生の夏休み、ちょうど就職活動の前の段階でインターンシップに参加してみると、自分は本当にそういう業界で仕事するのか考えてみる良い機会になりますよね。3年生の後期はいよいよ就職活動がスタートするので、キャリアセンターが実施している就職ガイダンスを活用したり、企業のセミナーにも参加して、情報収集に役立ててもらいたい。キャリアセンターは相談も積極的に受け付けているので、そういうところもしっかり活用して、就職活動の不安をどんどん解消しながら進めてもらいたいと思いますね。

4年生の4月から5月にかけて大手企業が内定を出す時期となります。内定が出たら、ちょっと一息ついていいんですよ。ただし、後の卒業までの時間は闇雲に卒論を書けばいいか、というところではない。やはり、会社に入ってからの方が本当に社会人基礎力のようなものが

求められるわけですよ。内定して落ち着いたら、社会人基礎力の要素が何なのか、どうすれば力をつけられるのかを考えて、能力向上の取り組みをすることをお勧めします。書籍を見てみるのもいいかもしれません。

例えば、ブレインストーミングという発想法があるんですけど、これは、なんでもいいから思いつくままに意見・アイデアを出していく方法なんです。ただルールがあつて、それは人の出した意見や実現の可能性を否定してはいけないということなんです。「いやそれは・・・」と言った瞬間にみんな止まっちゃうんですよ。そこを言わずに、とにかく出してみよう、みんな受け入れよう、その後でカテゴリーごとにまとめてみようとか、キーワードを出して発想しようとか、そういう方法を少しでも知って学ぶというのが1つの方法ですね。

他に活用してもらったら良いと思うのは、キャリア教育科目です。これは来年度以降1年生から受講できるので、1年生

でも2年生でも気が向いた早い段階で受講してもらおうと、役立てることが出来ます。大学院生にもキャリア教育科目を開設していて、コミュニケーション力養成とか、プレゼンテーション力養成、やや高度な傾聴の能力養成といった、どちらかというと演習で具体的なスキル身につけるような講義をやっています。そういうのも活用してもらえたらと思います。



キャリアセンター横にある就職に関する様々な資料

就職を含め将来を考える時のポイントを教えてください

将来の行き先を全部計算して成り立たせることができるか、という点と難しい。例えば自動車業界では、BIG3のうちクライスラーとGMが破綻しましたね。そんなことが起こる世の中なんだから、絶対的な安定を計算で求めようとしても、人間には無理なんだよね。そんな中でどんな事を考えてやっていくかという点、可能性はちゃんと求めていったらいいんです。自分はこんなことをやりたいんだ、という希望があるんだとしたら、それに向かつて邁進すればいいんです。ただしそのときに、将来にわたってずっとこうだという絵を描いていけるか、という点それは難しいことなので、今やることをとにかく一所懸命やる、ということに力を注ぐほうが良いと思います。というのは、入社して「私はこういう仕事に取り組みたいんです」と言っても、企業は会社の都合で配属するから、必ず

しも希望している仕事に就けるとは限らない。総合科学部の先輩でこの春資生堂

に入社した人がいるんだけど、その人は中国語が得意で、入社するときは中国関係の事業につきたいと思っていたわけです。ところが配属されてどうなったかというと、日本国内で営業をやっているんです。彼が今どんな仕事をやっているかというと、自分が担当している企業の店舗に直接行って、化粧品が売れていたら前に品出しをするわけです。コンビニのアルバイトと同じようなことです。雑用みたいなこともするわけです。「本当は中国に関するビジネスをやりたいのに、これかよ」とか言っていたら仕事が続かないところだけど、彼はそれでも元気にその仕事のことを話してくれました。彼は、「これは資生堂に入って仕事を覚えるためにはやっておかなければだめなんだと、将来的に中国とビジネスをする場合も日本の仕事に分かっていないと成り立たないから必要なことなんだ。」と言っていました。目の前の仕事に一喜一憂せ

ず、好き嫌い言わずに、一生懸命取り組むという姿勢が必要です。

それから就職活動のとき、就職活動する前の段階で、頭の中で第一志望とか決めるわけですよ。ところが、実際就職活動した最終的な結果を見ると、思っていないところに決まったというケースが多いです。総合科学部の先輩で、今任天堂で働いている人がいるんですけど、任天堂は最初自分としてはおまけのつもりで受けて、アステラス製薬でMR職の仕事をしようと思っていたらしいんですよ。でも、結局任天堂の内定が出て、「やっぱり仕事が面白そうだから任天堂で頑張ります。」ということを僕に言いに来たんですよ。そういうことがあるわけですよ。だからそこまで計算が成り立たないんですよ。

ましてや応募する前の頭の中の順番って実は何かというと、入ってからの仕事は全然違うかもしれないのに、自分のイメージの世界だけで順番を付けちゃったりするわけですよ。だから、ある程度

は考えないといけないんだけど、行動の部分は今日のことを一生懸命やるということとは就職活動でも必要だし、社会に出てからの仕事もその考え方は必要なんですね。人間は、過ぎ去ってしまった過去のことは変えられないから、そのことをあまりよくよく悩んでみても、今日の前の問題って解決しないよね。それから、就職活動の結果、自分がどこに決まるのかはなかなか分からないよね。結局、うまくいくのかいかないのかではなくて、人間って今やることに対して集中して一生懸命やることしかできないんですよ。そういう考えを持っていると、今日の大切さとか、今日の自分の役割を果たす大切さというのが認識できるんだと思います。

今年の広大生の就職状況はどうですか

就職状況は二極化する傾向にあるんですね。今、就職活動は厳しいって言われています。テレビ番組などでも、100社受けても内定が1社も出ない人がいるという事例を紹介している。そんな時代にもかかわらず、大手企業から何社も内定を取る学生が広島大学にいます。その一方でかなり長期間活動してようやく内定をもらったとか、未だに内定していないとかいう状況が発生しています。そういう意味での二極化は今に始まったことではないんだけど、厳しい時代は余計そこがはつきり分かれるんです。

これから就職活動は厳しいですよ

景気の状態によって、厳しい時はあります。でも、どんな時代でも内定を複数取って、そのことで悩むような人がいます。そんな贅沢な悩みを持つ人は、そう

でない人と何が違うのかというと、学生生活で直面している問題に対して、本当に逃げずに向かっていっているんだと思います。逃げて解決策を模索する積極的な姿勢は、就職活動に通じるものがあるのではないでしょう。

総合科学部の学生に進路の見つけ方のアドバイスをお願いします

一般的に、学部は文理に別れていますよね。でも人間はそこに入ってみて自分がそれに向いているとか、逆にやっぱり合わないと感じつくこともあるわけです。大学で学んだことを絶対に生かさないといけないのか、というと必ずしもそうではない。逆に言うと、総合科学部の人は文理にとらわれなくてもいいんです。そのかわり専門性を身につけている人は、それを生かしたいと考えた就職活動の方向ももちろんありますよ。実際、品質管理部門に生物系の方に来てほしい

という募集があつて、会社のほうは広島大学では生物生産学部しか意識していなかったんだけど、「いや私も総合科学部で生物専攻しているんで応募したいんです。」と言ったら、すぐに面接に呼ばれた人もいます。これは専門性の分野が向こうに受け入れられた場合の一例です。

総合科学部の方はいろんな分野に目を向けるチャンスがあるからこそ、自分の可能性を限定しなくていいわけですよ。ただし、そのときに社会を知らないとか、どこにいいのかといったことが分からない。だから、2年生くらいになったら新聞のウェブサイトとかでいいから、世の中のことをちよつとでも知っておけば、今の世の中の問題がどこにあつて何を求められているんだろうか、ということに対してちよつとでもイメージがわきますよね。将来何をするかまだ決まっていなくても、新聞を見ていたら「この仕事、この会社、面白そう。」なんてことを思うかもしれない。そうしたらその後で、自分はそれをなんで面白そ

うだと思っただろうと考え、そこから言語化していくんです。理由は分からないけど、これって面白そうだと思うたら、後でそのことを分析的に考えてみる。それがたまたま自分の分野と違ったとしても、分野の垣根を超えていけばいいんですよ。分野にとらわれず、自分の興味関心を大切にしてほしいと思います。

キャリアセンターとしての就職活動応援の取り組みを教えてください

就職活動そのものでいうと、3年生の前期からガイダンスを開催しています。後期はガイダンスと、企業の方あるいは卒業生のいる企業の方をお招きしての企業セミナーとか、卒業生によるキャリアセミナーとかを実施しています。就職活動の前段階として、インターンシップのプログラムを利用することもできます。企業のことや社会のことを知る、良い機

会になります。個別の対応として、相談を受け付けています。月曜から金曜までの、朝10時から夕方5時までの時間帯で、予約制で1時間の相談を受けています。今年の個別の相談件数は、前年度比約120%で、2,400件から2,500件くらいになると思います。相談内容は幅広く、進路や就職はもちろん、進学だとか留学後の方向性についてなど、他にも様々な相談をお受けするようにしています。

加えて、例えば最近だと、面接の一部として、グループディスカッションや集団面接が実施される企業が増えてきているので、キャリアセンターがそういう練習会を企画したり、友達5人以上で集まってキャリアセンターのカウンターで申し込んでもらったら、職員がオブザーバーとしてついて面接練習をすることができるといっても始めました。3年生やM1の方を対象に、就職支援バスツアーというのをやっています。例えば、交通費1,500円、宿泊費1,500円

で東京に行けます。しかも、ここでは広島大学のOB・OGとの懇談会もセッティングしています。また、キャリアサポーター制度というものを昨年度からスタートさせました。これは就職活動を終えて内定された方で、後輩の就職活動をサポートしたいという方に、サポーターとして登録していただくものです。それで、グループディスカッションの練習会の時のオブザーバーになってもらったり、卒業された後、OB・OGから直接話を聞きたいという人のために紹介させてもらおう、という取り組みも始めました。

それから、企業から大学側に求人票というものが寄せられるんですけど、その求人情報をもみじのシステムから閲覧できるようにしています。もちろん、その求人情報をキャリアセンターでも見ることもできるように、とりまとめて置いています。以上がキャリアセンターにおけるだいたいの就職活動をサポートする体制ですね。

ただ1つ問題があつて、例えばガイダンスとか相談だとか、そういうサポートがあることを十分に学生の皆さん方に周知できていないのではないか、という感じがあるんです。その理由は、就職活動をされる方の中で、ガイダンスに参加される方があまり多くないということなんです。聞いてもらったら、必ず役に立つ話なんです。相談件数も少しずつは増えてきているんだけど、まだまだ少ない。内定状況が悪いのかもしれないけど、4年生やM2の方で内定がまだ出ない方が相談やガイダンスに来ているかというと、そうでもないし……。求人が来いますよ、というアナウンスもしているんだけど、もしかしたらそれも届いてないかもしれないですね（笑）。でも、まだたくさん求人情報はきているわけだから、もっともって活用してもらいたいというのはありますね。



原田先生の話聞く編集委員

どんなときにキャリアセンターに足を運ぶと良いでしょうか

就職活動が本格的にスタートした10月以降にキャリアセンターを利用するよりは、2年生のうちでも3年生の初めでも、とにかく早いうちに1回キャリアセンターに足を運んでもらいたい。これか



いつでも閲覧可能なたくさんの資料

らどうしたらいいのか等の、漠然とした質問を投げかけてもいいんですよ。新入生にも、ぜひ足を運んでもらいたいですね。「分からない」ことを聞きに来ることから始めれば、力になれると思います。

【担当】

21生 平野 詩歩
22生 恩田 怜